

共通語を求めて

樋口 克己

青山ライフ出版

目次

まえがき	3
第1章 一般的事項	
1-1 NHKのおふざけ英語	5
1-2 日本語の発音と文法	21
第2章 英語の音と語	
2-1 文字と音	30
2-2 単語の語勢	34
2-3 異音語と多義語	37
2-4 同音語・同形語・派生語	43
2-5 反義語・類義語・類似語	47
第3章 品詞	
3-1 総論	57
3-2 名詞・代名詞・形容詞	60
3-3 副詞・動詞	74
3-4 接続詞・前置詞	94
3-5 間投詞	103
第4章 語彙	
4-1 慣用句・熟語・成句	110
4-2 日常生活用語	126
4-3 修辭法	144
第5章 共通語への道	
5-1 世界の言語	156
5-2 名称も美しく	168
あとがき	194
索引	200

まえがき

私は若い頃に、北アフリカのアラブ諸国のひとつで、天然ガス処理工場の建設に従事していた。勤めていた会社は日本の企業であり、職種はフランス語の通訳翻訳だった。そしてその時の経験から書き上げたのが、この本の原本である。しかしフランス語の本を書いても出版して下さる会社は殆どなく、また売れることも全く期待できないので、やむなく英語に変えてみたのだった。しかしその英語版も陽の目を見ることなく消え去り、長い間ほったらかしにしてあったものを、今回更に手を加えて、英語をもとにした読み物に変更して書き上げてみた。

こうして振り返ってみると、本書はかなり大胆な本といえる。とても真面目に外国語、とくに英語を勉強するための本ではない。ただ英語はもちろん日本語も十分に吟味して書いたので、ほぼ誤りはないと思う。というか日本人だって日本語を間違えるときもあるように、英米人だって英語を間違えることもあるという、おおらかな気持ちで書き上げた。最近、ある政治家が選挙運動の応援を頼まれ、「皆さん、^{せきはい}惜敗を期して頑張ろう」と演説したと聞く。まあそれにしても面白いことをおっしゃったものと、大半の日本人は思ったことだろう。こういうこともあるわけだから、要するに言葉は通じればよいのである。「過ちは人の常、許すは神の業^{わざ}」であるのだ……。

さてヨーロッパでは、統合が徐々にではあるが進んでいるようだけれども、我がアジアではそのような兆しは殆どない。その理由はあの忌わしい大東亜共栄圏の亡霊があるからだろう。そこで統合を問題とする前に、我々東洋系の黄色人種が共通に使える言葉を作ったらどうだろう。美しい文字と美しい響きをもった言語で、かつ人類の知的遺産のすべてを、その言語だけで表現しきれるような夢の言語である。そこでその手本として英語という言語を取り上げて、それをもとに夢の言語を作る道を探るのが本書の目的である。ただ作ること自体はさほど難しいことではないが、問題はそれが目的にかない広く浸透するか否かである。それを実現するため皆さん、赤飯^{せきはん}を期して頑張ろう！

著者

追記：この本は樋口一浪の筆名で、彩図社より出版してもらっていた同名本の電子書籍版です。出版社も変り、著者名も変わったので、書名はそのままにしました。

第1章 一般的事項

1-1 NHKのおふざけ英語

英語は難しい。日本で生れ育った人々の半数はそう思っているのではないだろうか。難しい理由は英語側と日本側の双方にあると思われる。英語は一見やさしそうに見えるけれども、その実、西洋言語の中でも特に難しい言語に分類できる。文字は26文字しかなく、動詞の大部分も殆ど活用せず、名詞に格や性による変化も殆どない半面、単語の発音と綴字及び語勢(accent)の置く位置についてこれといった原則がなく、殆どが慣用によってきめられている。英語の発音には「**原則はないという原則しかない**」という人もいる。

発音以外では慣用表現の多さ、時制と相、冠詞そして前置詞の使い方の難しさがあげられると思う。しかし逆に言えばこれら5つを乗越えれば、英語も乗越えられることになる。その最も良い方法とは言えば、単語すなわち「用例を含めた単語力」に尽るといえる。ちなみに日本国内で売られている普通の国語辞典は、およそ6万語の日本単語が載っている。普通の日本人はこのうち半分の3万語位は大体知っていると思う。ところが英単語について言えば大学入試で1万語、英検1級で2万語も知っていれば楽に合格できる。この辺にも英語の難しいといわれる日本側の原因があると思われる。

巷^{ちまた}にたくさんある英語学校の類では、高い授業料を払ってせいぜい数千語の範囲の会話を楽しみ、分らなくなればニコニコ笑って済ませてしまう。これでは普通の英語は仲々ものにはならない。自動車学校に通えば免許証という確固たる成果が得られるのに、英語学校に行ったり英語教材を大量に買って、殆ど成果がないと嘆いている人も大勢いるだろう。更に言えば学校教師や一部の出版社の人々が、情報の出惜しみをしているという点も挙げられる。

一人の教師が何十冊もの英語に関する本を出したり、何十社とある出版社が何百冊もの英語の本を出して、より多くの本を買わせようとしている。これも非常にまずい。英語学はできても実用英語のできない人達、英語はできるのだが日本語がそれにつられて怪しくなってしまう人達、そういった人々になることなく英語ができる人になることは、日本人にとって本当に難しい。そこで以下においてその理由を考えてみることにしよう。

まずNHKという組織があるが、これは一体何なのか？日本放送協会の略なら日放協といえよいのに、NHKでは日本人にも外国人にも通じない。英語を全く知らない日本人の一部には、Nihon Hoso Kyokai といえば、外国人にも通じると思っている人間もいるようだから呆れかえる。日本国内では日本放送協会、国外ではJBC (Japan Broadcasting Corporation) で統一すべきだろう。社名がいかさまだとやっていることもいかさまが多い。教育テレビやラジオ第二放送では色々な英語講座を放送しているが、大部分はおふざけ、おちょけ講座ばかりだ。

一言で言うならば、一人でも多くの日本人に英語を嫌いに

なってもらうように、努力している番組ばかりといえる。黄色人種がニコニコ、ニヤニヤと笑いながら白色人種と英語で喋っている姿は本当にみっともないし、まるで幼稚園児が先生と喋っているようだ。それなのに Keep on smiling などと言って、英米人でも首をかしげるような変てこりんな英語を得意になって紹介したり、「キソエイゴツー」とか「ナットウ delicious!」などという馬鹿げた英語を、英語番組なのに使っている。これでは英語を知らない中学生らが聞いたら、キソエイゴやナットウは英米人にも通じる英単語のひとつと誤解してしまうだろう。ふざけるのもいい加減に下さい。

しかも放送している内容といえば、誰にでもわかるような簡単すぎる表現を何百回と繰返している。繰返練習が言語習得の基礎とはいっても、何事にも限度があるだろう。要するに情報の出惜しみである。私の住んでいる名古屋という田舎町には市営バスと市営地下鉄があるが、ここでも日本放送協会の英語番組と同じく、一人でも多くの名古屋市民にバスや地下鉄を利用してもらわないように、日夜努力していらっしゃる。そして大量の赤字公債を発行して、我々はまっかな血の出るような努力をしていますと言いたげである。考えてみればNHKも名古屋市職員も、ともに公務員という特殊な人類なのだから当然かもしれない。不幸なことである。以上からして**NHKはNKH**、すなわち**日本国賊放送**と名称を変えた方がよい、と考えている人もたくさんいることだろう。

英語が話せるということは、和文英訳が即座に頭の中で出ることと言えるので、日放協の講座でもまず日本語を言い、次にそれを外人講師が英語で言うという方法がいい。しかしどの

番組でも、相変わらず旧態然とした方法でまず英語が読まれ、その次に日本語訳が読まれる場合が殆どだ。これでは読める英語が多少はできても、話せる英語はまずできないだろう。

「たかだか逆にしただけだろう」という人もいるかもしれないが、これが実は大変な違いなのだ。現に例えば生から死へは行けるが、その逆の死から生へは来れないのと同じようなことと言え、耳から覚えるべき言語の基本は、常に自国語から外国語へと行くべきである。そこで本書でもまず日本語を書き、次に英訳文を書くという方針を採用するが、時として英文の方に構文上や文法上の特色があることを示すための例文の場合には、英文を先に書くという方針を採用している。

日本では中学と高校を通して6年間も英語が国民の8割方に教えられているのに、ほんの1割位だけがまともな普通の英語が理解できるだけである!! 恐ろしい無駄だ。しかも英語は喋れなくても英文法の本を出している大学教授とか、英語は喋れなくても英文学の翻訳書を出している翻訳家とか、英語は全く喋れなくてもNHKで英米系の歌謡曲の解説をしている者達とか、変わった人々も結構いる。

要するに黄人には白人の言語をうまく喋ることはできないから、文科省も日本国民も、英米文化や文明のおいしいところだけをつまみ喰いして、日本国のために役立てればよいと考えているのだろう。島国国民特有の上手なやり方と言えるが、一抹の虚しさを感じてしまう。

一般的に言って南方民族が、北方民族の言語を習得するのは難しいことである。がしかし例えば日本に働きに来るフィリピンの人々などは、その大半が2～3年の日本語教育を受けただ

けで、かなり上手に日本語が話せる。それなのにアメリカやイギリスに2～3年滞在している日本人の商社員や新聞記者らのほんの少しが、まともな英語が話せるだけだ。学校では**通信簿 (report card)** が出されるように、日本民族全体の通信簿を出すとなると、日本人は理工学は秀、医学は優、法律や経済学も優だが、文学はなんとか良、語学に至っては不可がつくことだろう。人間個々人に得手不得手があるように、民族全体にも得手不得手があるものだ。

ただ善人が損をするのが世の常であるように、語学の得意な民族は、あまり他の科目が得意でない傾向がみられるようだ(すいません、フィリピンの皆さん)。アラブ人なども語学が得意であり、相当数の人々が英語かフランス語が話せるが、物理や工学、数学などはからきしダメである。もっともアラブ人が、こんなにも理工学がダメになってしまったのも、あのムハンメドがイスラム教を広めてからである。それ以前はアラブ人も数学や化学、とくに代数の分野では、かなりの業績を残しているのに可哀想なものだ。代数を意味する algebra という語も、元々はアラビア語のはずである。日本人が語学の下手な国民の筆頭とすれば、英米人やフランス人もそれに続く国民と言える。しかもこれらの人々は語学以外の分野では、殆ど秀や優に近い成績をあげているから、やはり悪い奴は得をするということの現れであろう……。

こう考えてくると語学などは日本語さえできれば、他の科目で良い成績をあげた方がよいことになってしまい、本書を書く意味がなくなってしまうので、やはり語学も必要であるという前提で話を進めよう。言語は本来、音声的なものだからやはり

耳から覚えるべきである。目から覚えた知識は正確だがすぐに忘れてしまうのに対して、耳から入った知識や体で覚えた技術は何年たっても忘れないものである。

子供は皆、「これ何?」「あれ何?」「どうして?」という3つの基本文を駆使して、親から日本語を習得していく。これと全く同じことを学校教育で行うのは難しいので、他の方法をとるとしても、文法や構文などを目から覚えるのは全く無意味である。例えば日本語で形容動詞の活用を書いてくださいと言われて、すぐに「だろ、で(に)(だっ)、だ、な、なら、一」と書ける日本人はどの位いるだろうか? 殆どいないはずである。むしろ形容動詞って、動詞を形容する品詞のこと?、などと言う人もいるだろう。

それにも拘らず日本ではこれと同じようなこと、つまり英米人でも知らない文法用語や知識を学校では教えている。情けないことである。兎にも角にも、外国語は耳からだけ最初は覚えるべきだ。「馬鹿のひとつ覚え」と言うと言葉はよくないが、それと似た「**英語のひとつ覚え**」をとりあえずやることから始めるのがよい。中学と高校を通じて6年間も英語を勉強しながら、国民の8割が日常会話のひとつもロクにできないのは超異常である。フィリピン人や中国人などの皆さんに恥かしいとすら言える。ラジオ体操は国民の9割方が踊れるのに、なぜそれ以上の時間を費やしている英語はダメなのか?

そこで「**英語のひとつ覚え**」を始めよう。中学生や高校生が日常に出くわす色々な場面を想定して、日本語の会話とそれに続いて英語の訳文を、ただ耳から入る音だけで反復暗唱するとよい。例えば「今日は学校で何をしてきたの? うん、弱い子

を2、3人いじめてきたよ。良かったね。みんな強い子になって弱い子をいじめようって、公共広告機構の人々も宣伝しているものね」とか、「今日、先生に保健室に連れ込まれて、さあ先生の搾りたての牛乳を飲めって言われて、口の中に入れられちゃたの。エー！それって強姦じゃあないの！うん、でも口の中では強姦にならないって弁護士先生は言うし、あの先生はバックに日教組がいるから怖いの」などの、日常の生きた会話を英語で暗唱するとよいだろう。

ただ上記の例、とくに後者はあまり日常的でないだろうが(そう期待したい)、最近でも広島市の公立学校の先公が、20年間に亘り60人以上の生徒を、同様の手口で強姦していて逮捕されたと聞くから、まんざら非現実的でもないようだ。まさに先公もヤー公も同じ穴のムジナ (They are of the same ilk) の時代と言える。また中学で英語を最初に覚えるときには、日本語訳はなしで、全くの英文だけを音だけで覚えるのがよいし、もう少し簡単に短い文章、例えば「今日学校で、25m プールを二往復泳いだよ」などから始めると良い。

この際に使う教材は米語ではなく英語が良いだろう。というのも米語はあまり響きが美しくなく、言ってはよくないが、いわば名古屋弁のような英語が米語だからだ。しかも英語は、これも言っては良くないが、白人が喋ったときはじめて美しく響くのであり、有色人種や白人と有色人種との混血の人々が話してもあまり美しくは響かない。最近では日本のあちこちで、英語まがいの米語で吠えまくる放送局が増えているようだが、本当に耳障りである。しかもどういう訳か、自局の放送局名と周波数を10分に1回、1日で100回以上も吠えている。バカの